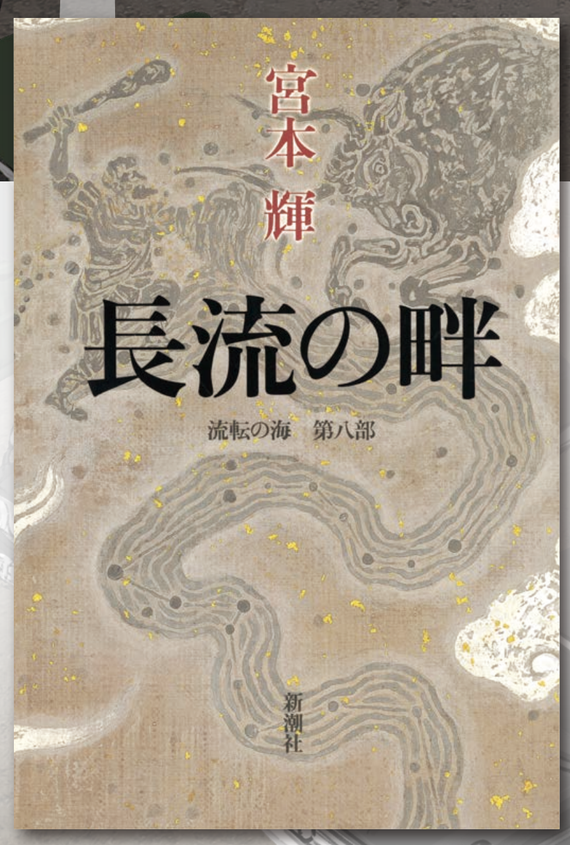
長流の畔

まったくなにがどうなっていくのか
「お先真っ暗」であると同時に
「前途はつねに洋々」でもある。



2016年 新潮社

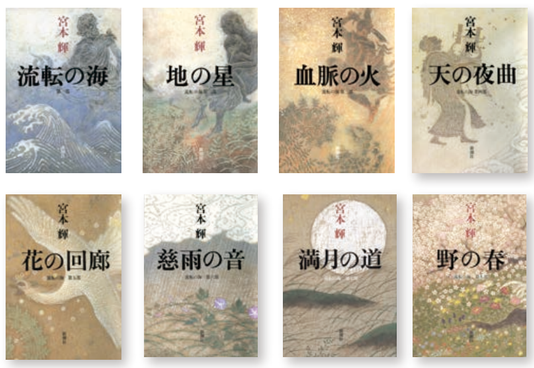
Story

会社の金を横領され、金策に奔走することになる熊吾。大阪中古車センターをオープンさせたのは良かったが、別れたはずの愛人博美との関係は終わることなく、ついに房江の知るところとなる。伸仁もこのことを知り、熊吾との距離を置くようになる。
憤懣と傷心の中で房江は、ある思いをもって城崎へ。
病気と怪我が重なる熊吾、夫に見切りをつけて働き始める房江、押し入れの中で読書にふける伸仁。危機的状況の松坂一家はこれからどうなってしまうのか。

『流転の海』シリーズ

『流転の海』シリーズは、宮本氏のライフワークとなる長編連作である。宮本氏の父、母、そして自分自身をモデルとしているといわれ、物語は主人公の熊吾に関わる個性的な人間を中心に、終戦直後の混乱の中、必死にもがき生きてきた人々の生きざまを描く。舞台は、時代が進むにつれ、故郷の愛媛、新天地を目指して移住した富山、そして再び大阪へと変遷すると同時に、父を中心と描かれる世界から、息子の目を通した物語へとなってゆく。

『流転の海』（流転の海 第一部）福武書店1984年7月・新潮社1992年11月
『地の星』（流転の海 第二部）新潮社1992年11月／『血脈の火』（流転の海 第三部）新潮社1996年9月
『天の夜曲』（流転の海 第四部）新潮社2002年6月／『花の回廊』（流転の海 第五部）新潮社2007年7月
『慈雨の音』（流転の海 第六部）新潮社2011年8月／『満月の道』（流転の海 第七部）新潮社2014年4月
『長流の畔』（流転の海 第八部）新潮社2016年6月／『野の春』（流転の海 第九部）新潮社2018年10月



変わりゆく一家の姿

苦労続きの熊吾の姿を見ていると、
自分の気持ちまで重くなってきますが、
登場人物のあたたかい笑顔や、
生き生きとした姿に触れるうちに
励まされ、自分ももっと頑張ろうと思いました。
さまざまな不幸に襲われる熊吾は、
これからどうなってしまうのか。
息つく間もなく引き込まれていく人間ドラマです。